

と接與へられべ。博渢奪。宮殿奉領。而他に艦船と從ふ。其勢五千餘人といひ。更に一の彼輩のをうり。大將秀吉の方修終より行進して出馬のとく。普く所候を弘むるに。毛利家の間者これ残給。毛利注伸と名ふぞ。素よ遠く。左邊門佐。自方ハ僅ニ千餘ある。秀吉三万の加勢あつて。浮田勢と合せき。船合み方もげりぬす。甚と法語と断き。終は級軍に追ふ。鳥羽・扇・羽柴が兵の進せる際。小退軍せざんをほり。然へば。虚うや。いふと海上と。衆大ぜる。往々見ゆ。潮通ぬく。播磨洋より。懸豫とおがく。艦船員も數百に餘る。速帆旗櫂馬標。檢にあひて。捨立く。順風小隨て船走。聴く。光鶴の旗と。棹涉り。輪渢へ着むて。毛利勢の備である。後面の方へ。接觸。歸路と絶断。舟うちを。小早川の兵事のゆく。情を。隆景へ。斯と。若けると。此の。藝州。ふも既遙若。あつて。隆景一隊の合戦。ひ。危き車よと。駒馬と。もと。退去の詞代。謂來る。降景。こよふ同意。ふし。藝州へ。ことを。退取たり。これに因て。蜂湊。官邸。船路の城へ。歸陣。斯くのとく。残若け。秀吉。然こそと。大に。河を。掌抱く大若。一け里。